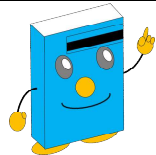


Q 知的障害のある児童生徒の学習上の特性とは？

A **学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面の中で生かすことが難しい**ことが挙げられる。そのため、**実際の生活場面に即しながら、繰り返して学習**することにより、必要な知識や技能等を身に付けられるようにする**継続的、段階的な指導**が重要となる。児童生徒が一度身に付けた知識や技能等は、着実に実行されることが多い。

また、**成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことが多い。**そのため、学習の過程では、児童生徒が頑張っているところやできたところを細かく認めたり、称賛したりすることで、児童生徒の**自信や主体的に取り組む意欲を育む**ことが重要となる。

更に、抽象的な内容の指導よりも、**実際的な生活場面の中で、具体的に思考や判断、表現できるようにする指導**が効果的である。



（特支小中学学習指導要領解説各教科等編 第4章第2節1、  
特支高学習指導要領解説知的教科等編（上） 第2編第2部第5章第2節1）

授業づくりでは、教師が実際の場面を設定したり、児童生徒が実物を使って具体的に学習したりと、「実際」「実物」というところが重要です。

また、教育的対応や学習環境の工夫が大切になってきます。「学校における合理的配慮とは？（p. 1-14）」「ユニバーサルデザインについて（p. 3-31）」「教室環境の整備について（p. 3-32）」「教材・教具の準備について（p. 3-33）」を参考にしてみてください。

